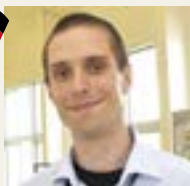


ヤニックのドイツ紹介⑳ Neunundzwanzig(ノイン・ウント・ツヴァンツィヒ)



イースターのたき火

皆さん、こんにちは！ Guten Tag! 国際交流員のディーツ・ヤニックです。今回はドイツの春の祭り「イースター」におけるたき火について紹介します。

ドイツの最も重要なお祭りの1つである「復活祭」(ドイツ語で「オースターン」、英語で「イースター」)は、3月下旬～4月中旬の金曜日から月曜日までの4日間に祝われる春のお祭りです。「イースター」は、キリスト教で最も重要な祝日となっていますが、実はキリスト教が北欧に広がる前から続いてきた、ある風習にルーツがあります。

その大昔から続いてきた風習の中に、「イースターのたき火」があります。イースターの土・日曜日には、ドイツ語圏だけでなく欧州の多くの地域で、高さ数メートルにもなるたき火が行われます。地域によって違いはありますが、イースターのたき火には土地の豊饒(ほうじょう)を願う意味があると言われています。



ドイツ北部ハンブルク、ブランケネーゼ区におけるイースターのたき火(2009年)
©Sansibla - CC BY-SA 3.0

ドイツ語圏では、地域の人が、たき火を行う数週

間前からたき物を高く積み重ねたり、たき火の当日にたき物の中に小動物が入り込んでいないか確認したりするなど、総出でたき火の準備をします。年末年始にゴミに出されたクリスマスツリーを、イースターまで保管して燃やすこともあります。しかし、近年はたき火による大気汚染を防ぐため、消防署の許可が必要となり、多くの地域ではイースターのたき火が制限されてきています。

ドイツ北部ハンブルクのブランケネーゼ区では、エルベ川沿いにたき火を作って高さを競います。たき物の頂上には、冬を象徴するわらで作られた人形が掲げられ、午後9時頃に火がつけられます。市内外から多くの人が観覧に訪れ、ビールやホットワインを飲んだりバーベキューをしたりして、大いに賑わいます。



ドイツ北部ハンブルク、ブランケネーゼ区におけるイースターのたき火
©Markus Mross - CC BY-ND 2.0

アウフ・ヴィーダー・ゼーエン
またお会いしましょう！ Auf Wiedersehen !

イノシシなどの野生鳥獣による農作物被害への対策

●農作物等鳥獣被害調査にご協力ください

イノシシなどの野生鳥獣による農作物などの被害状況の把握は、令和4年度から上越市鳥獣被害防止対策協議会が行います。電気柵の設置や捕獲活動などの対策を講じる上で重要な基礎データとなりますので、被害を確認した場合は下記のとおり報告してください。

調査範囲	市内農家組合の範囲
調査対象	農作物全般(畑作物、果樹および家庭菜園を含む)、農地および農業用施設
調査方法	別途配布する調査票に被害状況を記入し、発生の日度、随時報告してください。(FAX・メール可)
報告先・期限	11月30日⑧までに農村振興課中山間地域農業対策室または各総合事務所

●有害鳥獣を捕獲しています

農作物の被害を防ぐため、(一社)新潟県猟友会が年間を通して、イノシシなどの有害鳥獣の捕獲を実施しています。猟銃やわなを使用しますので、見掛けても近づかないようにしてください。なお、住宅地や人が多く集まる場所では実施していません。

※猟友会員は、捕獲活動時にオレンジ色の帽子とベストを着用しています。捕獲活動を行う際は、実施者が関係する町内会に周知します。

※わなを設置した場所には、設置した人の住所・氏名などを記載した標識を掲示しています。



捕獲用わな(例)

●鳥獣侵入防止用電気柵に触らないで！～設置者は正しい設置を～

野生動物による農作物被害を防ぐために設置された設備です。電気柵の危険表示に注意し、電線には絶対に触れないでください。

<設置者が行う安全対策等のポイント>

- 見やすいように適当な間隔(100m程度)で、危険である旨の表示をする
- 電源は必ず電気柵用電源装置から取る
- 30ボルト以上の電源(家庭用コンセントなど)を使用する場合は、必ず漏電遮断器を設置する
- 電気柵機材の盗難防止対策を行う

●鳥獣の出没しにくい環境づくりを！

屋外に放置された野菜くずや収穫されない不用な柿などは、イノシシやクマをおびき寄せます。集落内でそのような場所がないか点検し、野生鳥獣の餌となるものは除去してください。

📞 問合せ…農村振興課中山間地域農業対策室(上越市鳥獣被害防止対策協議会事務局)(☎025-520-5755)